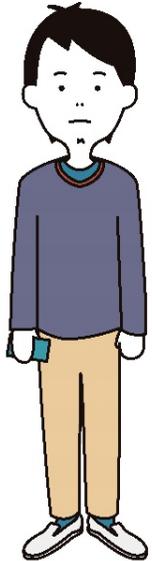


やまなし ペルソナシート

井上大輔
26歳



加藤愛
30歳



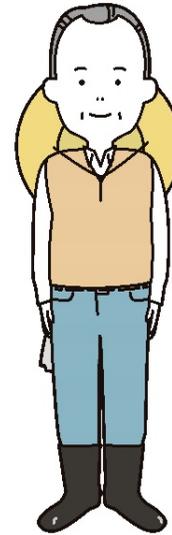
佐藤希
20歳



笛木未保
37歳



望月斎
56歳



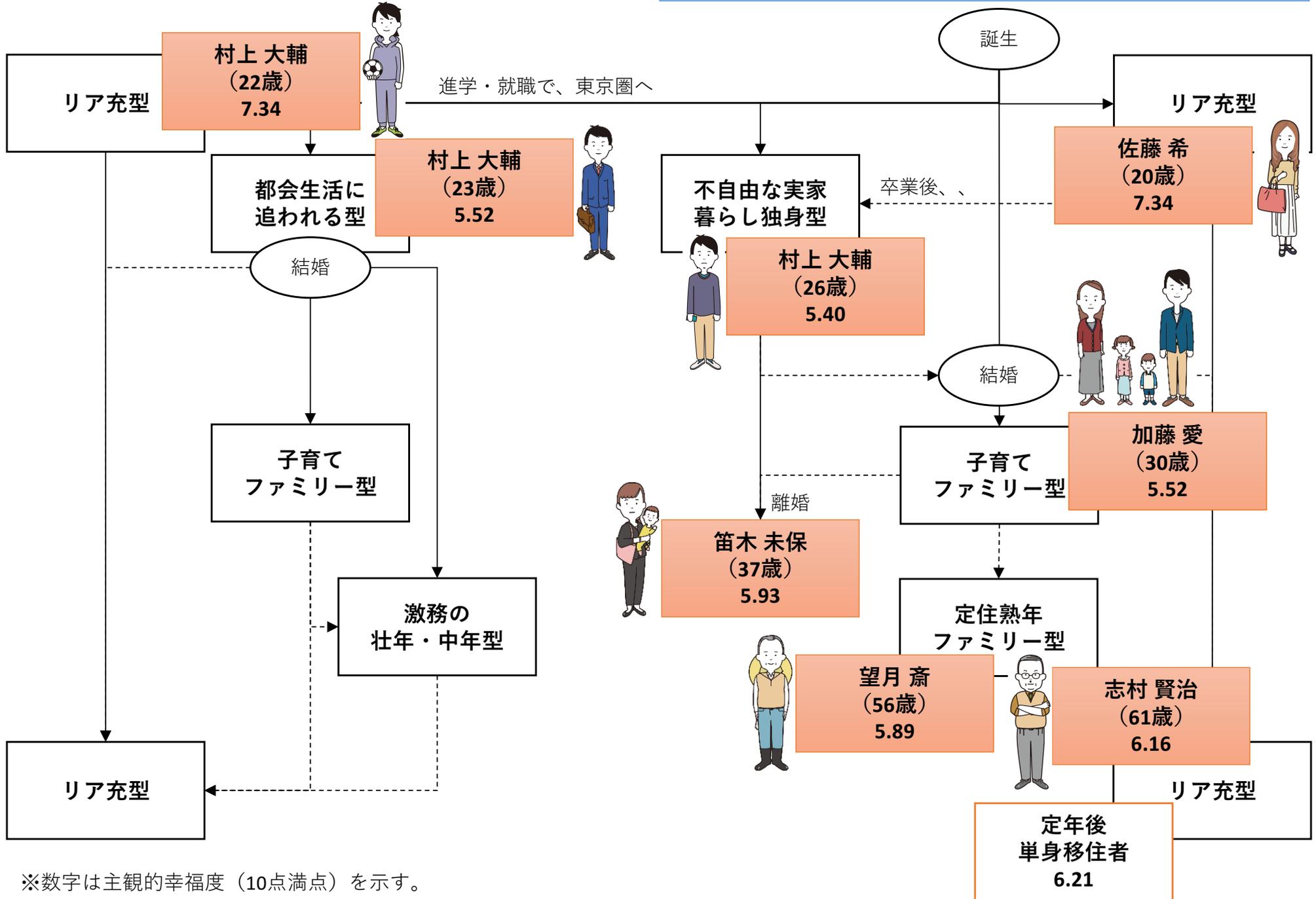
志村賢治
61歳



アンケート結果による人物像の全体

都市居住者（東京・神奈川など）

山梨居住者



※数字は主観的幸福度（10点満点）を示す。

【若者】

村上 大輔
(22・23・26歳)



村上大輔(22歳) 「大学卒業するまでの村上大輔」

1990年9月15日 AB型

家族：一人暮らし、家族は山梨の実家に暮らしている。

職業：大学四年生、私立大学の経済学部

住まい：大学の近くのアパート

食事：(学内)友人、(バイト)賄い、(ひとり)コンビニ

■ライフゴール(長期的)：生活の充実、精神的な健康を重視、都会的な便利な生活

■エモーショナル(感情面)：趣味のための時間やそれにかかるお金があること(生活)

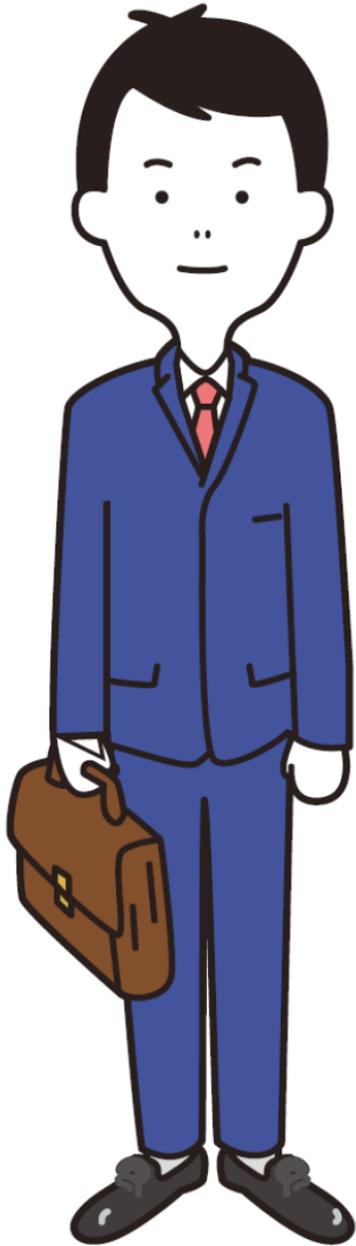
■エンドゴール(行動面)：マイペースに自分の時間を確保できること

村上大輔さんはぶどうと桃の農家の家に二男として誕生します。中学生の頃は小学6年の年に日韓ワールドカップが開催されたこともありサッカー部に入部します。

しかし部の空気が肌に合わず、また体力的に続くけることが難しいと感じ、高校ではバドミントン部で汗を流す日々が続きます。運動は得意ではないが嫌いでもないと思っていて、バドミントンは三年間続けました。

県内の普通科高校を卒業後は東京の私立大学の経済学部に入学します。田舎育ちの大輔は果樹に囲まれた生活から一変、ビルが乱立した都会の中で都会的な生活に夢を膨らませます。大学時代は学校の部活やサークルには所属せず、奨学金を借りながらの生活費のため、バイト(中華料理チェーン)に精を出します。趣味は高校の頃から見ていた映画やアニメといった映像媒体で、自分の時間で自由に見られることがこの趣味の良さと考えています。また元サッカー部ということもあり、サッカーは国際試合をテレビで見る程度の興味は持っていましたが、大学の友人に誘われてFC東京の試合を観てからはFC東京のユニフォームや応援のスタイルのカッコよさに感化され、本格的に趣味として応援するようになります。

就活ではこのまま都会での便利な暮らしを続けたいと思い、東京での職場を探します。職の探し方としては今まで通りにFC東京のサポーターとして応援できるように味の素スタジアムまでの交通の便で選び、業務に関しては経済学部ということから安直に営業職を選びました。就職を機に彼女とは別れましたが、これからの都会の生活にはあまり不安は感じていないようです。



村上大輔(23歳) 「都市生活に追われる型、社会人二年目」

1990年9月15日 AB型

家族：一人暮らし、家族は山梨の実家に暮らしている

職業：高田馬場にある瀬戸ファーム(健康器具メーカー)の営業

住まい：杉並区、荻窪にあるアパート、通勤時間は35分

食事：個食、外回りの空き時間に

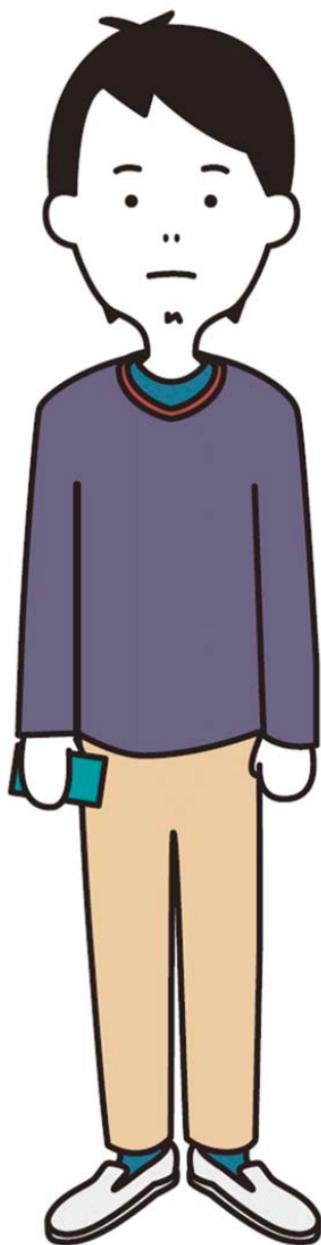
- ライフゴール(長期的)：生活の充実、精神的な健康を重視、都会的な便利な生活
- エモーショナルゴール(感情面)：必要とされ、役立っていることが実感できると幸せを感じる(仕事)
- エンドゴール(行動面)：マイペースに自分の時間を作れることを意識して行動

ぶどうと桃の農家の次男として誕生した村上大輔さんは、県内の普通科高校を卒業後、東京の私立大学に入学します。大学時代は友人に誘われて観に行ったFC東京の試合に感動し、都会的な生活を謳歌します。大学卒業後は都内の生活を続けるために高田馬場にある健康器具メーカー「瀬戸ファーム」に入社、営業職として業務に務めます。

手取りの給料は12.5万でそのほとんどが生活費に消え、小遣いは雑費を含めても2.5万しかありません。趣味であるゲームやサッカー観戦に使える分が少なく、思い描いた生活との差に落胆しながら生活を送る毎日です。服はユニクロとGUなどの比較的安くシンプルなものを好み、食事はスーパー西友で値引きされたものを選び、できるだけ節約に努めています。毎日8:00に出社し、21:00に退社するまで働き、帰宅後は趣味の時間はなく、家で家事と休むことしかできません。マイペースな性格の大輔さんには自分で使える時間やお金が少ないことがストレスになっているようです。

会社では体育会系のノリがあり、少しついていけないことで馴染め切れないところがあります。業務ではノルマを達成するために顧客に押し売りのような場面があると、申し訳ないと感じ強いストレスを感じます。売り込みが弱い同期の中では成績が最下位で自己肯定感が低下してきているのを本人も感じています。顧客がほしいと手に取ったものだけ売ることではできないのかと苦悩する日々です。相手の満足感や自分が直接的に人の役に立っている感覚が得られない環境では仕事に対する意欲が上がらない性分なのかもしれません。

大輔さんはこの生活に我慢しあと約1年間続けますが、金銭面と精神面の不満から実家に帰ることを決意します。



村上大輔 26歳 「不便な実家暮らしの独身。生活することに精一杯で選択肢は少ない」

1990年9月15日生 H171cm W58kg AB型

家族：父(60)、母(59)、兄(30)、兄妻(27)、祖父祖母(81)、叔父(55)、犬(8、6)

職業：小売店スーパーA 貢川店 勤務

住まい：山梨県 笛吹市 御坂町 上黒駒

食事：朝は一人、昼は勤務地で店の弁当、夕食は家族と。

- ライフゴール(長期的)：生活環境の充実、精神的な健康を重視、都会的な生活
- エモーショナルゴール(感情面)：かつての友人や新しい知人と交流をもてること(つながり)
- エンドゴール(行動面)：マイペースに自分の時間を確保できること

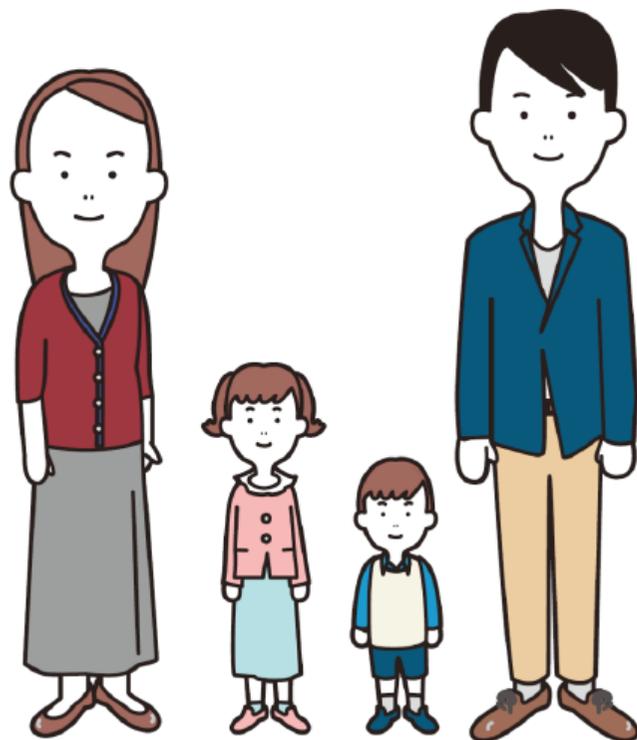
村上大輔さんは笛吹市、旧御坂町に住む26歳の男性です。大輔さんは東京の大学を卒業後に東京の会社で営業職として働いていましたが、昨年からは故郷である山梨に移住し、現在はスーパーマーケットで働いています。前の職場でやる気をなくしてしまったため、現在の仕事に対してもやりがいはいはあまり感じられていません。職場と自宅の移動のみでありあまり出歩かず、職場柄世間に合わせて休めないこともあり、山梨に帰ってきてから新しい友人はできていません。現在の職場での年収は260万と低めですが、実家で両親と暮らしているため東京時代よりは生活に余裕があり、趣味にも時間とお金を割けるようになりました。大学時代にFC東京の試合を観て以来サッカー観戦が趣味でしたが、スポーツ観戦以外にも趣味があり映画やドラマ、アニメなど映像媒体も好みます。最近では海外のゲームに夢中になっていた時期もありました。またカッコいい車にも興味を持っており、現在はスズキのワゴンRに乗っているがいつかはデザイン性の高いマツダのCX3に乗りたいとも考えています。

大輔さんはマイペースな性格で凝り性なところがあり、関心を引いたものに没頭します。興味が向くことや自分の中の基準で「しっくりくる」かが行動の指針です。また大勢の人の前で話すことは苦手です。自信を持ってできること以外はあまりやりたがらない傾向があるようです。

交友関係はSNSで知り合った趣味の合う友人や大学生時代の友人が中心です。異性とは就活時に別れてから未だ誰とも付き合っておらず、具体的な行動を起こしているわけではありませんが、漠然と30歳頃になれば結婚できると感じています。他人から評価されるようなキラキラした都会的な生活に憧れはありますが、理想とかけ離れた現在の生活を受け入れて生活しています。

【子育て世代】

加藤 愛
(30歳)



加藤 愛 (30 歳) 「子育て世代の主婦」

通称 ママ

1986 年 7 月 4 日生まれ H161cmW48kg A 型 富士河口湖町出身 富士北陵高校卒業

夫 秀章 (30) 通称 パパ 1986 年生まれ 身延町出身 甲府工業高校卒業 (野球部所属)

長女 綾香 (7) 2009 年生まれ (23 歳時に出産)

長男 翔平 (2) 2014 年生まれ (28 歳時に出産)

住まい: 昭和町のアパート (月 7 万円) 次男の出産を機に現在地へ移住

愛の友人: 花菜 (30) 独身 沙織 (30) - 徹也 (34)

- ライフゴール (長期的): 子どもを心配させない程度に余裕をもって働くこと
- エンドゴール (行動面): 末っ子を自立させること
- エモーショナルゴール (感情面): 子どもの幸せが親の幸せ⇒子どもたちが幸せな生活を送れるようにすること

加藤愛さんは富士河口湖町に生まれ、高校卒業までこの町で過ごします。高校卒業後は甲府市の企業へ就職し、通勤のため甲府市内での一人暮らしを始めました。事務職として働きながら資格の勉強に取り組む日々でしたが、合コンで秀章と出会い 22 歳で結婚します。1 年後には長女綾香を出産。それを機に退社します。28 歳時には長男翔平を身ごもり、2 児の母となりました。30 歳の現在、今年から小学校に入学した綾香と、イヤイヤ駄々こね期に突入した翔平の子育てに奮闘しています。アイドルのファンクラブの会員で、以前はコンサート鑑賞を趣味としていましたが、忙しさから最近疎遠になっているようです。2 人の友人には子どもがいなため、自由な時間が多く今でも頻繁に交流していますが、愛さんはなかなか彼女らに会う機会を持ってません。「子どもの幸せがいちばんだけ

ど、やっぱり昔の自分らしい生きかたも良かったよね」忙しい生活の中でそんな考えが一瞬頭をよぎることもあります。

加藤家の家計は、ある月では国母の工業団地で勤務する秀章の給料 (手取り 24 万円) と、将来を見据えた貯金のため、約 5 時間のパート勤務を週に 4 日こなす愛の給料 (8 万円) の合計 32 万円の収入によって成り立っています。そのうち 22 万円は家賃や食費、車の維持費に消費され、残りの 10 万円は貯金 (7 万円) と余暇活動費 (3 万円) に振り分けられました。

この年の世帯年収は 480 万円と、金銭的な苦しさは感じられません。平日の日中は翔平を保育園に預けパートタイマーとして働くことで貯金と余暇活動費を確保している状況です。

【若者】

佐藤 希
(20歳)



佐藤 希 (のん) 20 歳 リア充女子大生

1996年6月25日生 A型 身長163cm、体重は内緒(45kg)

家族：父 健太郎(小学校教員、48)、母 絢美(看護師、49)、妹 百音(大学生 5)、

職業：県内の就職率高めの四年制大学 2年。進路指導室にあったパンフレットが気に入って、オープンキャンパスに行ったことがきっかけになった。教職(英語教員)が取れるので親も賛成している。

住まい：山梨県 甲府市池田、庭付き一軒家。お向かいで飼っているオウムが自分の部屋の窓から見える。

食事：朝食は車で軽め(コンビニの菓子パン&午後の紅茶)、抜く時もある。昼食は学食で友人4・5人と。学食限定プリンも買う(ふとる〜とか言いつつ)。夕食は、サークル終わりにみんなでサイゼリア(ミラノ風ドリア&ドリンクバー)。

■ライフゴール(長期的)：キラキラした生活！

今しかできないことを行いたい、将来もしっかり考えていたい。自分らしさとは何かを発見し、個人としてのIDを確立できること。

■エモーショナルゴール(感情面)：スッキリ〜な感覚

満足な生活(リア充なのに)なんだか物足りない、この気持ちのもやもやがスッキリすること。

■エンドゴール(行動面)：卒業

自己の発見、自分の望む姿を見つけ、自分自身の殻を破ること。モラトリアム期間からの卒業。自分らしい将来設計を発見し、大学から卒業すること。

友人は多い(ほう)。小学校から仲のいい友人とは高校が離れてからも定期的にご飯会をしている。たくさん友人はいるが、一緒にいるメンバーはだいたい同じ。趣味は、気のおけない友人と集まること、おしゃれや美容、運動や健康にも気をつけている。今挑戦したいのはホットヨガ。流行に敏感、好きな人はいないが、イケメンや恋愛映画、少女漫画も観る。愛読雑誌は ar (アール) など。食べ物では、ミルクティーをよく買う。菓子パンや肉まんなど、片手間でも食べられるものが好き。期間限定品やネットで人気の物をつい買ってしまふ。グリーンスムージーなどを、ダイエットの為に購入。炭水化物を減らすこともある。

成績は、要領がいいので学内の友人より少し高め、でも自慢したり相手の上に立ちたいと思う気持ちは無い。しかし……、グループの一部として扱われることに違和感を感じ始める。仲が悪いわけではないが、自分のことどう思っているんだろう……と思うこともある。

将来は、具体的に決まっていらないが、親や知り合いには、手に職を！！と言われるので、今度秘書検定を取る予定。高校時代は英語が得意なほうで、大学では留学もしてみたいなと考えている。このまま流されて生活するのはイヤ！！親に甘えているつもりはない、一人暮らしをしたらきっと何か自分に足りないものが見えると思っている。東京に住みたいとは思わないが、東京の友人を見ると、東京の生活も楽しそうと思う。

【子育て世代】

笛木 未保
(30歳)

『30代後半の疲れた ワーキング・シングルマザー』



- 名前 (本人) 笛木 未保 (37) 1980年11月11日 H158 W45kg A型
(長女) 綺麗 (2)
(実父) 泰三 (62)
(実母) 幸絵 (59)
- 職業 団体臨時事務職員
- 住まい 山梨県 笛吹市 一宮町 (実家)
- ライフゴール (内容レベル: be)
再婚し、子供の成長を楽しみにできる明るい家庭を築きたい
- エモーショナルゴール (感情レベル: feel)
少しでも気持ちの安定がほしい
- エンドゴール (行動レベル: do, can)
精神的な健康の安定、生活の環境の充実、子供の成長の見守り

- ストーリー（背景、現状など）

笛木未保さんは果樹園農家の長女として誕生。県内の総合科高校を卒業後、県内の専門学校に入学し、簿記検定などの資格を取得して、県内の中小企業の事務員として就職。そこで10年勤務。この期間、仕事が忙しくてなかなかよい縁に恵まれずにいたが、久しぶりに出席した高校の同窓会で再会した級友と意気投合し結婚。アパートを借りて二人の生活がスタート。やがて子どもができたことを契機に仕事をやめた。しかし、子どもが誕生した頃より夫のDVが始まりやがて離婚。心身ともに疲れ果て、実家に戻る。仕事を探したが、なかなかよい就職先が見つからず、なんとか団体の臨時事務職員に就く。現在、年収は270万と低く、実家で両親と暮らしているので、ぎりぎりの生活はできているが、生活費は足りない。

未保さんは、比較のおっとりした性格で、祭や町内会のイベントに駆り出され、仕方なく手伝えることもある。子育てに忙しく、週末は両親の農作業も手伝えることも多くあり、趣味はもっていないが、特に不満ではない。一番大事なのがわが子を含む家族なので、それでよいと思っている。

実家は果樹園農家のため、日中は農作業で忙しく、子どもの面倒はなかなか頼めないのが現状である。そのため、仕事の時には近くの保育園に預けている。しかし、子どもが熱を出したりして急に退勤しなくてはならない際、職場の人たちから嫌な顔をされるなど雰囲気はあまりよくない。仕事と生活のバランスがとれないのを苦しく感じている。

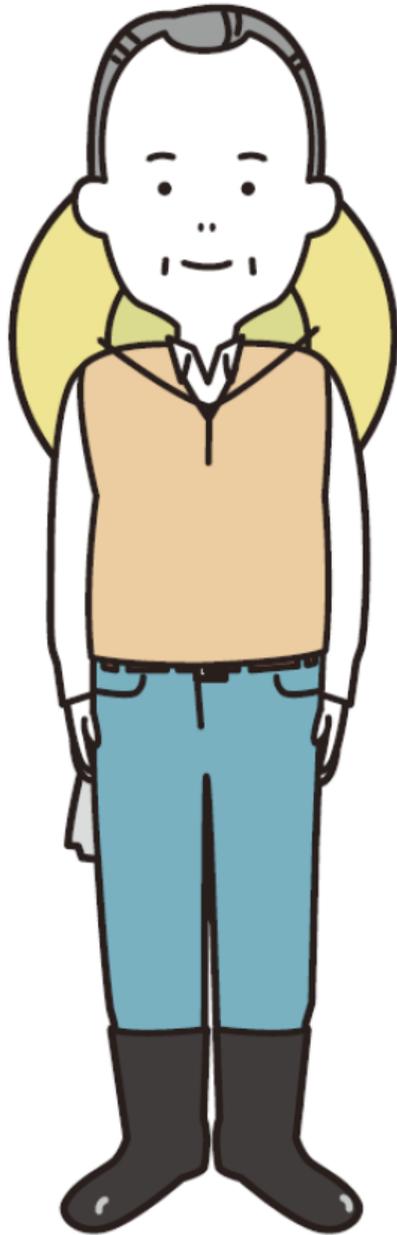
友人とはたまにしか会えず、ほとんどがスマホでLINEやメールのやりとりを行っている。公園は比較的近くにあり、時間があれば子どもを公園に連れていくが、雨が降ってしまうと外で遊べないため、不便に感じている。

心身ともに健康でいることは大切だとは思っているものの、現実には日々の生活で疲れ切っていて、気持ちのゆとりがあまりない。今は子どもだけが生きがい、もっと、子どもとの生活を充実させたい。

-
- インサイト（新たな気づき）
 - 幸福のための環境改善は望んでいないというよりは、しょうがないといった、あきらめ感（マイナス思考）を抱いているのでは？
 - 心身両面での安定策が一つでも見つければ、プラス思考になるかも？
 - 子どもが生きがいの感覚は、実は自分自身の心の安定が図られないジレンマの裏返しでは？
 - 自分の満たされない気持ちを子どもに向けている（はけ口）になっているのでは？
 - 一方、子育てをしている親は、大部分が子どもが一番、自分のことは二の次と考えているため、子どものことだけで精一杯の気持ちになるのは当然の心理であると思われる
 - 子育てに加え、やがて両親の介護も加わることが予想されるため、将来にわたり解決先が見当たらず、出口の見えない負のスパイラルに陥る危険性がある
 - 心の中では自分への支援の助けを求めているのでは？
 - 日々の生活や職場環境から実は不自由さや現状に振り回されている余裕のなさを感じているのでは？
 - 一日のスケジュールを見ることで、時間の使い方が解決の糸口になるかも？
 - 登園・帰園や習い事の送迎などの支援も必要？
 - ペルソナは年齢経過とともに変化していくのでは？
 - 問題定義
 - 心身の安定を図り、プラス思考に転ずる方策
 - 時間の使い方
 - 具体的な子育て支援の方法

【地元住民】

望月 斎
(56歳)



望月 齋（もちづき ひとし） 「農村地域に暮らす農業人 3世代で暮らす50代後半の男性」

生年月日・年齢・身長・体重・血液型：1960年（昭和35年）生まれ 56歳

家族：父（77歳）、母（76歳）、妻（53歳）、長女（大学生21歳）、長男（高校生18歳）

職業：巨峰、桃を中心とした果樹農家

住まい：山梨市牧丘町地内にある昔ながらの大きな木造建築2階建て

- ライフゴール（長期的）：医療面等が安心できる生活、家を代表する立場として自分自身で思い描くことの実現、住民による交流や活動が活性化し昔のような地域の復活
- エモーショナルゴール（感情面）：昔のように地域活動が活発で住民同士の交流と助け合いが実感できる安心・安全な生活、地域のつながりや一体感
- エンドゴール（行動面）：自治会活動や地域のお祭りなどへの積極的な参加

望月齋さんは、巨峰と桃を生産する果樹農家の長男に生まれました。3人の姉は、県内の他地域に嫁ぎました。時折実家に来ます。齋さん自身は、地元の高校卒業後、企業への就職を希望していましたが、きょうだい一人の男であり、選択の余地なく実家の農業を継ぎました。33歳の時に妻と見合い結婚し、以来両親との生活が始まり28年になります。子どもは2人で、現在はこの地域でも珍しくなった3世代での生活をしています。所有する農地はこの地域では広い方です。果樹は、労力や苦勞の割に収入は天候に左右されることが大きいため、子どもには、安定した収入の得られる道を選んで欲しいとの気持ちと、一方では、果樹農家を継いでほしいとの気持ちもあります。

齋さんが暮らす牧丘町は、山梨県の峡東地域の山間地域です。以前は、果樹農家を中心に多くの人が住み、地域のお祭りや各自治会の行事などは活発に行われていました。また、景観が良いことから別荘が多く、中には移住した人もいるなど、山間部の割には多くの人が生活していました。当時齋さんは、移住者に挨拶をする程度で関心を持っていませんでした。地域の20年間の変化は、農地を手放し転居する人や就職や進学で地域を離れる人や別荘を手放す人が増えるなど、人口が減り、空き家が目立つようになりました。また、高齢者だけの家も多く、農業をやめるため耕作放棄地が目立ちます。人口の減少だけでなく、お互いの交流が少なくなり住民相互の信頼関係の希薄化や自治会活動や地域の祭事等を行うことが難しくなったと感じています。さらに、商店街の減少や医療機関が近くになく、万が一の時に高齢者や障害者への支援が行き届かないことを心配しています。

齋さん自身は自治会や地域の行事に良く参加をしますが、地域社会での家の代表は父親になっており、この点が齋さんは少し不満な点です。齋さんは、安心・安全で生活しやすい地域にするためには、これまで関心を持っていなかった移住者を増やして空き家に住んでもらい、地域活動等と一緒に参加してもらおうと良いと考えています。しかし、父親や近隣の人と話し合ったり具体的な行動をしたこともありません。移住者に関する情報は自ら持っていないため、子どもたち頼りでネット情報を確認する程度です。今後、どのように対応すれば移住者との接点を得られるかよくわからず困っています。

【地元住民】

志村 賢治
(61歳)



志村 賢治 (61 歳)

1956 年 1 月 18 日生 O 型

家族：8 人きょうだいの長男。妻 (56 歳) と二人暮らし、息子 (近所に別世帯) と娘 (東京に嫁いでいる) が一人ずつ
父は 5 年前に他界し、母 (87 歳) は認知症で施設に入所している。息子は仕事で毎日通ってくる。

妻は地域の愛育会活動やカルチャースクールで出かけることが多い。

職業：元織物業 (卸問屋) の店主。地元の工業高校を卒業後、先代 (父) の後を継ぐ。

現在は息子がインターネット販売を始めたので、商売はほとんど任せている。近くの大学生が入居するアパートの経営も行っている。

住まい：山梨県都留市在住 (商店街) 家から富士山が見えるのは当たり前前と思っている。

趣味：あえて言えばゴルフ・旅行は好きで妻や友人と時々出かけている。

社会活動：高校の同窓会長。織物組合理事。

- ・ライフゴール (長期的)：よい時の都留地域が活性化し、地域の中で大切に育ててきた織物業や文化 (祭りなど) が伝承されることを願い、2020 年の東京オリンピックには期待している (バブル再来?)。近隣の人々との交流を大切にしながら、夫婦で元気に過ごしていく。
- ・エモーショナルゴール (感情面)：地元が大好きで「都留がよくなれば他はどうでもいり」くらいに思っている。自然災害と自分の老後はちょっと心配。地縁を大切にする反面、価値観の異なる移住者や学生への期待や関心は薄い。
- ・エンドゴール (行動面)：4 つのちよきん会 (無尽みたいなもの) に入っており、友人は多く役所の人とも親しい。地域の活動には夫婦で積極的に参加している。地域の伝統的?な価値観をベースに意思決定や行動を行う。

志村賢治さんは、日本の高度経済成長に「神武景気」とはやされた 1956 年に、都留市で織物業 (卸問屋) を営む一家の長男として誕生しました。地元の工業高校を卒業後は、父の後を継いで精力的に仕事をしてきました。バブル景気真っ只中に結婚し、仕事も家庭も充実した生活を送ってきました。長女は東京に嫁ぎ、長男は大学卒業後に実家に戻って後を継いでくれました。現在は息子がインターネット販売を始めたので、商売はほとんど任せています。景気がよいとは言えない状況は続いています。富士山の世界遺産認定で海外からの観光客が増えていることや 2020 年に開催予定の東京オリンピックをきっかけに、バブル景気が再来することを本気で期待しています。仕事が忙しいとは言えないため、たっぷりある時間で地元がよくなるためにと、地域活動に積極的に参加しています。元来、面倒見がよく誰からも親しまれる人柄から、地域の中でも頼られる存在として、高校の同窓会長や織物組合の理事も務めています。ちょっと KY などところがあります。役所の人と話す機会も多く、高齢化や人口減少対策が話題になる中、最近“CCRC”という言葉を知りましたが、何のことかわからないし関心もありません。近所に大学があり学生が入居するアパートも経営していますが、4 年経ったら出ていく学生には期待もしていないし、正直なところ根性のない若い人を育てるはずはないと思っています。近所の空き家に役所が推進するシステムを利用して、神奈川から 60 歳代の夫婦が引っ越してきましたが、地域の活動に一度誘ってみましたが出てきませんでした。どうも話が合わない感じがして、仲良くなりたいとは思えないので、それから誘うのをやめました。よそ者 (移住者) が増えても結局地元はよくなりません、地元で育てて地元を愛する人が U ターンしてくるのが一番だと考えています。